

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

動画視聴後の内容復習・補足知識として使用できる「三択クイズ」「詳細データ」
授業の補助にお使いください

三択クイズ

【03】 滝沢の放歌踊【県指定】

	問 題	選 択 肢	正 解
【 Q1 】	「滝沢の放歌踊」は どこから伝わった文化でしょう？	愛知県 岐阜県 長野県	●
【 Q2 】	「滝沢の放歌踊」の「放歌」は【Q1】の地域とは 字が違います？それはどれでしょう？	放「火」 放「花」 放「下」	●
【 Q3 】	「滝沢の放歌踊」で使う道具は 次のどれでしょう？	大きな団扇(うちわ) 扇子(せんす) 大きな傘(かさ)	●
【 Q4 】	おかめとは何でしょう？	面白い顔をしている女性のお面 口をとがらせた男性のお面 幸せを呼ぶキツネのお面	●
【 Q5 】	放歌踊とは どんな踊りでしょう？	滑稽な動きや仮面を使うのが特徴の「猿楽」 念仏を唱えながら踊る「念仏踊り」 神様を祭る「神楽」	●
【 Q6 】	「滝沢の放歌踊」と「遠州大念仏」は どういう関係でしょう？	滝沢の放歌踊が広がって遠州大念仏が生まれた 同一イベント 遠州大念仏のグループに滝沢の放歌踊が所属している	●
【 Q7 】	承継問題解決のため地元学校と どんなを協力しているでしょう？	校外学習として全校生徒が毎年行事に参加 先生が行事に参加し、その経験を集会で発表する 放歌踊倶楽部という部活動がある	●
【 Q8 】	林慶寺に安置されている ものはどれ？	観音菩薩像 大日如来坐像 弁財天像	●
【 Q9 】	子供に行事を伝えるため小中学校で放歌踊の 指導をします。それはどれくらいの期間でしょう？	毎月1回 9月～3月の間、毎月2回 4月～10月の間、毎月2回	●
【 Q10 】	滝沢の放歌踊は明治から昭和初期の間に、 ある変化がありました。それは何でしょう？	開催日が冬から夏になった 踊りのテンポが速くなった 元々1人で踊っていたが、大人数になった	●
【 Q11 】	「滝沢の放歌踊」で 始めと終わりに使う道具はどれ？	笛 鉦鼓(しょうこ) 太鼓	●
【 Q12 】	滝沢の新盆供養で 庭に飾られるものは？	桃の枝 精霊棚(しよりようだな) お地蔵さん	●

「浜松市の無形民俗文化財」教材用資料

ふりがな	たき さわ の ほう か おど り	担い手	滝沢の放歌踊保存会
名 称	滝沢の放歌踊り	文化財指定	県指定 昭和32年(1957年)12月25日
場 所	浜名区滝沢町(初盆宅) 浜名区滝沢町1406(林慶寺)	開催日	8月13日
概 要	初盆の家を双盤(そうばん)や太鼓を鳴らして回り、先祖を供養する。遠州大念仏と放歌踊りが一對になっていることが特徴。林慶寺境内で、全村の先祖に回向(えこう=死者の成仏を願い、供養や法要を行うこと)を行った後、初盆の家々へと向かい、前庭にて、大念仏と放歌踊りが2部構成で披露される。 「放歌踊り」とは、鎌倉時代から室町時代にかけて放下僧(ほうかそう=僧侶の姿をして小歌を歌い、手品を見せ、楽器を演奏する者)により伝えられた念仏踊りで、三河(現愛知県東部)を中心に盛んに行われていた。「遠州大念仏」とは、初盆を迎えた家の死者の霊を慰めるために踊る集団念仏踊りで、踊るように太鼓が打ち鳴らされる。		
起 源	滝沢の放歌踊りは、愛知県新城(しんしろ)市大海(おおみ)に古くから伝わる「放下(ほうか)踊り」が、山伝いに引佐町渋川や東久留女木(ひがしくるめき)を経て伝わってきたとされる。滝沢では「放歌」の文字を用いている。		
演目・楽器	林慶寺境内で回向を行った後、初盆の家々へ向かうが、必ずその家から数十メートル、または数百メートル離れた位置から道囃子(みちばやし)の演奏を始める。一行は頭先(かしらさき)と呼ばれる組の責任者2人が先導し、ひんどろうとうという飾り提灯(ちょうちん)を持った頭(かしら)、幟(のぼり)、双盤(そうばん)、太鼓、笛、組名入の提灯(ちょうちん)を持ち回向の時は念仏を唱える供回り(ともまわり)など30人ほどが並ぶ。一行はゆっくり歩きながら庭入りをし、庭をまわりながらそれぞれの位置へつくと大念仏が始まる。そして、大念仏が終わると休憩をはさんで放歌踊りとなる。 放歌踊りは2人1組の踊り手が太鼓を中にして向かい合い、笛の音に合わせて左右に踏み出しては刀で太鼓を切るような所作をしながら踊る。演目には藤代踊り・浮舟踊り・お鷹の踊り・綾まき踊り・おつなの踊りなどがある。踊りがしばらく続くと、団扇(うちわ)を持ったひょっとこと扇子(せんす)を持ったおかめが現れる。ひょっとこの持っている団扇は身の丈ほどもある大団扇で、表裏に「神」「仏」と一字ずつ大きく書かれている。ひょっとことおかめは所狭しと踊り回り、景気づけをして賑やかな雰囲気の中に放歌踊りは終了。すぐに道囃子が演奏されて、一行は庭を左回りに一巡し、来た道に戻って行く。ひょっとことおかめもその後ろをよろけながら追って庭を出て行く。		

●作成年月日／令和6年9月30日現在の情報

